

④5

豊国崎（岬町多奈川）

文・写真 田中 広樹(海の観察会)

海と陸の間に防潮堤や道路があつて自然が遮られているところは半自然海岸と呼ばれていますが、豊国崎のように何にも遮られていない本当の自然海岸は大阪ではほんの少し（約1%）しか残されていません。磯に立って海を背にして見上げると、豊国戎神社のある崖がそびえています。ここを訪れるたび、当たり前前の景色が当たり前には残されていないものだと気づかされます。同じ岬町にある長松海岸の磯と比べると潮だまりは少なく、巨大な岩がごろごろとしており、積み重なった転石をめくると、ヤドカリや貝などが無数に出てきます。長松海岸では見られないアカイソガニもここでは見つけることが多く、同じ磯といっても海岸それぞれの個性があるのも面白いです。後ろの崖からの落石が心配で、観察会では「岩に近づかないで」と声をかけていますが、それよりも「これがほんとの自然海岸なのです」と伝えるようにしています。近くに流れ込む東川の河口干潟も大変興味深い生き物がたくさん見つかるため、両エリアを観察しようとする盛沢山になりすぎるのが悩ましいです。



府内では珍しいアカイソガニ



海から山につながる豊国崎

④6 守りたい自然『生駒谷十七郷の七森』（生駒市）

文・写真 小森 康弘(活動拡充・改称PJT／ 聲なき隣人の会)

かつて生駒市中南部には、生駒谷十七郷と呼ばれる十七の村があり、豊かな自然の恩恵の下、世界にも例を見ない神秘の森『七森』に囲まれた生活があった。各村の周囲に配された固有の七つの森は、外界の悪しきものから村を守る神域であり、枝葉ひとつ持ち帰れば激しい祟りを受ける等と畏れられた禁足地でもあった。

こうした森の神格化は、日本は勿論、世界各地で見られるが、各村に七つという形態は世界でも例がなく、極めて稀有な風土、民俗遺産と言える。また、生駒谷の変化起伏に富んだ地形も相俟って、豊かな生態系が息づいており、人と自然が相育む、貴重な自然環境でもあった。

数十年来の急激な都市開発により、多くの七森と自然環境が失われたが、今もなお、都市計画の塗り絵を塗り潰すべく、半世紀前の改造論なる熱病にうなされたまま、更なる破壊が続いている。

来たる環境社会に先駆け、環境を繋ぎ人々を感化する点において七森ほど象徴的かつ効果的で、相応しい存在はあろうか。今こそ、七森の再興、新七森の創出を目指したい。



タイの森



谷口の森